

みんな元気



第70号

児童養護施設 共楽養育園

〒745-0801
山口県周南市大字久米1347
TEL / 0834 (25) 0017
FAX / 0834 (36) 0017
E-mail / info@kyoraku.or.jp

春のご挨拶

朝起きたら「おはよう。」と言いながら支度をし、朝ご飯を「いただきます。」と言っていただき、学校や仕事に行く時、「いってきます。」と言えば、「いってらっしゃい。気をつけてね。」と言ってもらい、毎日が始まっていきます。平凡な当たり前の日常ですが、それを支えてくれる人と言葉をかわすことで気持ちが伝わり、『今日も頑張ろう』と元気をもらっています。言葉をかけることは、お互いを思いやり、感謝の気持ちを伝えることだと思います。そんなやりとりの積み重ねが、子ども達との暮らしの中にある「小さな幸せ」や「小さなサプライズ」の発見であり、それを大切に紡いでいく毎日が、子ども達が豊かに成長していく力となると思います。

法人の理念にある「慈愛と感謝の気持ちを基本」として、子ども達と共に過ごし、見守り、子ども達との生活を大切にしていきたいと気持ちを新たにしています。

これからも地域の皆様や関係者の皆様の多大なるご支援をご理解のもと、子ども達と地域の一員として歩ませていただきたいと思います。変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

共楽養育園

園長 安村 裕美



卒業、旅立ち
おめでとう！

丁君へ

指掌職員
今村
恭子

共楽養育園に入所してきました。初日は、園長先生におんぶされ過ごしたそうです。まだまだ言葉が出てでしたが、皆と一緒に生活していくうち、話も出来る様になりました。運動するのが大好きで、すこやかに仲良く過ごせる様になりました。穏やかな性格なので御父兄にも可愛がられていました。

高校二年の年、T君の担当を伝え入り、前向きに頑張って来ました。人懐っこい性格なので御父兄にも可愛がられていました。

小学校中学校では、サッカー部に入り、前向きに頑張って来ました。すると、「今村先生の担当になったよ。頼むね。」と、T君の方から言ってくれ、担当させて貰える事に感謝で温かい気持ちになりました。

高校では、職場体験が近づくと、緊張して心が不安定になり悩みましたが、いざ実習が始まると前向きに取り組めて、実習先から褒めで頂く事が多く、誇らしい気持ちになりました。「礼儀・常識・感謝の心」を、身につける為に声をかけると、最初は素直に受け入れられずに反対だったと思います。

Mさんへ

担当職員 松元 宏子

Mさん、高校卒業おめでとう。
Mさんが、なかべ乳児院から共楽養育園に来て十六年が経ちました。しっかりと歩いていた幼児期、明るく元気な小学六年間、部活バスケット部では怪我もあつたり、熱を出したりの中学生でした。

高校は、専攻科を入れると五年間通学することになる、防府高校衛生看護科に進みました。週五日の授業、土曜は朝早くからの部活動、日曜はアルバイトと休みが殆どない中、真面目によく頑張った三年間だったと思います。

他の卒業生と違つて、Mさんはあと二年園に残つて専攻科で学びます。専攻科二年間は、かなりハードだと聞いていますが、何事も弱音を吐かずには頑張ってきたMさんですから、きっと二年後には国家試験を見事パスして、笑顔が見られる自信しています。今までの誰よりも長い施設生活になるけど、残りの二年間、体に気をつけて頑張つていこうね。ずっと応援しています。

発していましたが、その後は素直に受け入れられる様になり、成長した姿を見る事が出来ました。

長い園生活では、辛い事、淋しい事も、沢山あったと思いますが、今のT君なら、園を出ても、きっと明るく前向きに頑張っていけると思います。今後、成長して見たい

ます今後も成長する姿を見続けたいので、時々、園に遊びに来てね、待っています。

運動するのが大好きで、すこやかに顔のT君に、皆が癒されました。ホームの御家族が、運動会で声をかけて下さった時の嬉しそうな顔は忘れられません。

小学校中学校では、サッカー部に入り、前向きに頑張つてきました。人懐っこい性格なので御父兄にも可愛がられていました。

高校二年の年、T君の担当を伝えられ、私を受け入れてくれるだろうかと心配しました。すると、「今村先生の担当になったよ。頼むね。」と、T君の方から言ってくれ、担当させられて貰える事に感謝で温かい気持ちになりました。

高校では、職場体験が近づくと、緊張して心が不安定になり悩みましたが、いざ実習が始まる前向きに取り組めて、実習先から褒めて頂く事が多く、誇らしい気持ちになりました。「礼儀・常識・感謝の心」を、身につける為に声をかけると、最初は素直に受け入れられずに反

僕は、二歳の時に共楽養育園に来ました。小学生の時、サッカーラブに入り、経験を生かし、中学生になつてもサッカー部に入部しました。練習は厳しく大変だと思うこともありました。部員、顧問、園の先生に、いつも励まされたおかげで三年間サッカーを続けることができました。高校では、サッカー部がないので、昼休み時間に、友達とサッカーをして楽しみました。卒業が近づくにつれ、長い園生活のことを思い出し、寂しくなる日もありました。園を出て一人暮らしをするのが不安ですが社会に出て多くの人と接して、新たな仲間を作り、楽しく生活したいです。共楽養育園のみなさん、僕を育ててくれてありがとうございました。

所で頼りにされてきたのだと思いま
す。K君にできること、任された仕事
にそれをひとつ加えられる、そんな示
テルマンになると信じています。

そして、これから一人暮らしが始
まりますが、自分で自分を律して
自分の力で生きていく事とは、とて
も困難な事だと思います。そんな困
難に出会った時には、K君が助けて
きた人達を見てみて下さい。誰も、
自分一人の力で生きていません。誰
かに頼れる人になって下さい。そし
て、その時は、謙虚にいきましょう。

今、新型コロナウイルスが世間を
騒がせていました。そんな中で、疑心
暗鬼が広がっているように感じます。
不安の中でも、人に頼られ、人を頼つ
て、人とのつながりを大切にし強く
生きて下さい。K君なら、新しい環
境でも、信頼し合うことのできる人
間関係を築くことができます。どう
か自信をもって夢を追って下さい。
応援しています。

何とか三年間続けることができました。そして今、高校を卒業し、共楽園を卒園することになりました。

僕が卒園にあたって思うことは、「共楽園に来て良かった。」ということです。初めて共楽園に来たときは、「施設で生活とか嫌だな。」と思っていたが、色々な人と出会い、色々な事を学んでいくなかで思いも変化していました。今はもう「嫌だな。」という気持ちは無くなり、かわりに「好き」という気持ちが出てきました。

共楽園に来て生活できたことは、僕の人生において一生の宝物になると思っています。実は、卒園にあたって感謝を伝えておきたい人達がいます。それは、共楽園の先生達です。僕が今こうして卒園を迎えることができるのには、先生達のおかげです。先生達が居なければ、今の僕は居ませんと言つても過言ではないくらいです。いつも恥ずかしくて言えないけど、「今までお世話になりました。ありがとうございました。」と、伝えたいです。

これからは、自分の夢を叶えるための第一歩として、広島の専門学校に進学します。ここで経験したこと

園を卒園することになりました。

僕が卒園にあたって思うことは、「共楽園に来て良かった。」ということです。初めて共楽園に来たときは「施設で生活とか嫌だな。」と思っていましたが、色々な人と出会い、色々な事を学んでいくなかで思いも変化していました。今はもう「嫌だな。」という気持ちも無くなり、かわりに「好き」という気持ちが出てきました。したが、色々な人と出会い、色々な事を学んでいくなかで思いも変化していました。今はもう「嫌だな。」といいます。実は、卒園にあたって感謝を伝えておきたい人達がいます。それは、共楽園の先生達です。僕が今こうして卒園を迎えることができるのには、ずかしくて言えないけど、「今までお世話になりました。ありがとうございます。」と、伝えたいです。

これからは、自分の夢を叶えるための第一歩として、広島の専門学校に進学します。ここで経験したこと活かして、自分なりに頑張つていこうと思います。

私は、共楽養育園に六歳から来たので約十一～十二年間お世話になりました。入所の頃は、何でこんな所で暮らすのか意味が分かりませんでしたが、すぐにお世話になりました。

小学生の高学年から授業に出なつたり、勝手に外に出たりして迷惑を色々かけたりしました。しかし、中学校に入つてからは眞面目に授業を受けました。

一番大変なことは高校に入ったあとでの進路先の決定でしたが、私にとってはそれよりも、毎年の園での担当職員発表でした。私の場合、あまり変わることはなかったですが（自分は人間関係がだいぶわがままというか大変なのでいつも担当を決めるのが大変と職員に言われてました。）だから変わった時は大変でした。

園を出ても、これからも勉強は必要なので頑張つていきます。みなさんも将来のために頑張つて下さい。十一～二年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

三

業・卒園、そして入学

していくうちに不安も解消されていきました。共楽園での生活は、慣れるまでとても大変でした。特に大変だったのは、「ご飯の時間や風呂の時間」就寝時間が決まつていたことです。園での生活にもだいぶ慣れてきた頃、僕は高校に入学しました。

ヨシタケ シンスケさんの絵本を読んで

里親支援専門相談員 永吉 敦子

学生時代は漫画すら読まない私でしたが、新型コロナウイルス外出自粛のためたっぷり時間があるので本棚の本をもう一度読み返してみた。本屋さんでこの本に出会ったときに絵本にこのタイトル?と思った。絵本作家のヨシタケシンスケさんの『それしかないわけないでしょ』。絵本というと小さな子どもが読むものと決め付けていたけれども、このヨシタケシンスケさんの絵本は大人が読んでも面白い。ヨシタケシンスケさんは子どもに選択肢を増やしてあげたり、それを子どもが自分で考えるきっかけをつくるのが大人の役目だといっている。

『それしかないわけないでしょ』を簡単に紹介すると、主人公は5才くらいの女の子。小学生のお兄ちゃんが「…ねえねえ、しってる? みらいはたいへんなんだぜ」と言う。お兄ちゃんがいうには「未来は人が増えすぎて食べ物がなくなったり、病気が流行ったり戦争が起こったりして太変な事になるらしい」ショックを受けた女の子はおばあちゃんに相談をすると「だーいじょうぶよ。みらいがどうなるかなんて、だれにもわからないんだから」と笑顔で言ってくれた。「おとなはすぐに『みらいはきっとこうなる』とか『だからこうするしかない』とかいうの。でもたいていはあたらないのよ」と言う。

あと大人は「これとこれどっちにする」とか言うけどどっちも違うなと思ったときには新しいものをみつけちゃえばいいのよ。

「すき」でも「きらい」でもない「すらい」とかあってもいい。選択肢は2つではなくてグレーでもいい。「よいか」「わるいか」とか「てきかみかた」とか分けなくてもいい。

選択肢は与えられるものではなくて自分で作っていい。大人として子どもにたくさんの選択肢を与えていきたい。レールに乗せてあげたほうが子どもは楽だろうと考えていたけれども、それは子どもの選択肢を狭めていたのだろう。未来は決して暗くはない。これから子どもたちが想像したほうに自らが作っていけばいいんだ。考え方ひとつで楽しい未来がたくさんみえてくるはず。コロナで不安な世の中「それしかないわけないでしょ」楽しい未来をたくさん想像していきましょう。

祝成人 Aさん、Mさんが、今年成人式を迎え、晴れ姿の写真を送ってくれました。



編集後記

今年前半は、「新型コロナ感染症」の感染拡大防止により、子どもたちも自粛生活を余儀なくされました。5月末緊急事態宣言も解除されましたが、今後も長期化が懸念されており、今年度の『共楽養育園祭』は中止させて頂く事になりました。楽しみにされていた方には、申し訳ありません。1日も早いコロナウイルスの終息を願うばかりです。

どうか、皆様も安全にお元気にお過ごしください。

松元 宏子